

がん診療に活かす

Cancer Predisposition

の考え方

～がんゲノム医療から小児がんの診療まで～

2024年2月17日(土) 10:00～16:40

ウェビナー開催 + 後日オンデマンド配信

参加費用	会 員	非会員
医 師	10,000円	12,000円
非医師	8,000円	10,000円



本セミナーの修了証は

- ・ 遺伝性腫瘍専門医の新規申請、更新の単位
- ・ 遺伝性腫瘍コーディネーター (HTC) の更新の単位として認められています。

10:00	開会挨拶&理事長挨拶	石田 秀行	埼玉医科大学 総合医療センター
10:10	小児のCancer predisposition総論	田村 智英子	FMC東京クリニック
10:50	小児のがん易罹患性症候群①: DICER1 (DICER1症候群とその関連腫瘍)	中野 嘉子	Cancer Genetics, Division of Haematology/ Oncology The Hospital for Sick Children
11:30	休 憩		
11:40	小児のがん易罹患性症候群②: SMARCB1、 SMARCA4(ラブドイド腫瘍好発症候群: Rhabdoid tumor predisposition syndrome [RTPS])について	中野 嘉子	Cancer Genetics, Division of Haematology/ OncologyThe Hospital for Sick Children
12:20	がん易罹患性もある小児の先天性疾患①: TSC1、TSC2 (結節性硬化症: Tuberous sclerosis complex [TSC]) について	北村 裕梨	順天堂大学 小児科・臨床遺伝学
13:00	休 憩		
13:40	遺伝性腎癌: FH、FLCN(遺伝性平滑筋腫症腎細胞癌: hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer [HLRCC])、バート・ホッグ・デュベ症候群: Birt-Hogg-Dubé [BHD] syndrome(について)	蓮見 壽史	横浜市立大学 泌尿器科
14:20	バリエントの評価と病原性解釈①: TP53の評価の注意点や問題点	山崎 文登	慶應義塾大学 小児科
15:00	休 憩		
15:10	バリエントの評価と病原性解釈②: ACMGガイドラインの応用に関する注意点や問題点	山本 剛	埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科
15:50	がん易罹患性もある小児の先天性疾患②: NF1(神経線維腫症I型: Neurofibromatosis 1[NF1] またはVon Recklinghausen Disease)について	西田 佳弘	名古屋大学 整形外科/リハビリテーション科 (骨軟部腫瘍専門)
16:30	閉 会		